

Market Flash

発表日: 2019年6月18日(火)

ISM50 割れ視野

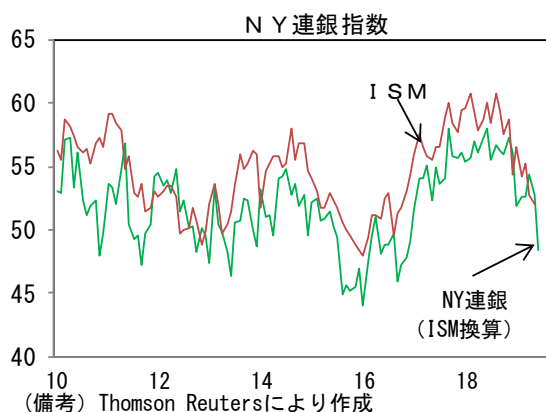
～予防的利下げの可能性高まる～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が浮上する中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは2020年に利下げに転じる見込み。ただしリスクは前倒し。

< # 予防的利下げ # FOMC # NY連銀指数急低下 >

- ・17日の米国では6月NY連銀製造業景況指数がネガティブサプライズ。市場予想の+11.0に対して結果は▲8.6。5月の+17.8から極めて大幅な下落を記録した。ISM換算では48.4へと4.3ptも低下し、2016年12月以来で初めて50を割れた。項目別では出荷(+16.3→+9.7)が大幅に下落したほか、新規受注(+9.7→▲12.0)と雇用(+4.7→▲3.5)がマイナス圏に沈み、出荷遅延(+0.7→▲4.5)と在庫(▲4.1→▲5.3)も下押しに寄与。その他では受注残(+2.1→▲15.8)と週平均労働時間(+4.4→▲2.2)が大幅に悪化。製造業の景況感が急激に冷え込んでいることを浮き彫りにした。ファーウェイ問題、対中関税引き上げといった貿易戦争の激化が企業を直撃した可能性が指摘できる。
- ・この指標は振れが大きく、ISM製造業景況指数の先行指標としてはフィラデルフィア連銀製造業景況指数に一步劣る。市場関係者の注目度が高いISM製造業景況指数の予測にあたっては(FOMC終了後の)20日発表のフィラデルフィア連銀製造業景況指数を待つ必要があるものの、現時点で6月ISMが50を割れるリスクが高まったのは事実であり、このことはFEDの金融政策に一定のインパクトを与えたとみられる。5月時点で52.1まで低下しているISMが50を下回ったところで定量的インパクトは限定的だが、同指数は非常にメジャーな存在ゆえ、FEDも軽視することはできない。17日時点でFF金利先物から逆算した6月FOMCの利下げ確率は17%程度と前日比小幅低下したものの、6月FOMCのサプライズ利下げはある程度意識しておいた方が良いでしょう。



【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は方向感に乏しい米国株の流れを引き継ぎ、もみ合い（11:00）。

【欧米経済指標他】

- ・ **6月NAHB住宅市場指数**は64へと5月から2pt低下。18年末頃まで大きく低下した後、モーゲージ金利低下を受けて改善傾向にあったが、足もとで再び軟化している。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は小幅反発。米指標は軟調も、FEDの緩和期待が高まる下で主要指数は小幅反発。WTI原油は51.93^{ドル}（▲0.58^{ドル}）。
- ・前日のG10通貨は小動き。FOMCを翌日に控えていることもあり方向感に乏しい展開。USD/JPYは108半ばで一進一退。EUR/USDは1.12前半でもみ合い。
- ・前日の米10年金利は2.094%（+1.4bp）で引け。NY連銀指数の発表後に低下した後、底堅い株式市場を横目に上昇に転じた。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.245%、+1.1bp）、フランス、スペインが金利上昇。イタリアが金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

